

吹田いろどり腎臓・糖尿病内科クリニック 院長 部坂 篤 氏



■PROFILE

大阪大学医学部卒業後、JCHO 大阪病院にて臨床研修を修了。国立研究機関の医薬基盤・健康・栄養研究所にて基礎研究に従事し、医学博士を取得。大阪大学医学部附属病院をはじめとする複数の基幹病院での専門性の高い臨床経験を積み見識を広める。2025 年 10 月、「吹田いろどり腎臓・糖尿病内科クリニック」を開院。

patona グローバルビレッジ津雲台（以下、阪大側施設含め「グローバルビレッジ」）の「つくもゲート」2階にて、2025 年 10 月に「吹田いろどり腎臓・糖尿病内科クリニック」を開院した部坂篤院長にお話を伺いました。



『当院は、慢性腎臓病・糖尿病を中心として、肥満・高血圧・甲状腺疾患・泌尿器科疾患など幅広く専門的な診療を提供しています。“専門医による治療を日常診療として受けたい”という患者様の声に応えるべく開業を決意しました。』と開業を決心した当時を振り返る部坂院長。

部坂院長がイメージした医院の開業場所としてグローバルビレッジを選んだ決め手は何だったのでしょうか？また、開業準備で注力した点についてもお聞かせください。

『何といっても連携先である阪大病院と近距離であること、その他、済生会千里病院、吹田徳洲会病院、市立吹田市民病院、市立豊中病院などの総合病院が多く、充実した病診連携基盤の構築が期待できる点です。準備段階で注力したのは医院の視認性を向上させる工夫とネット戦略です。特にウェブサイトやSNSでの情報発信は、現代のクリニック経営には欠かせないと思います。』



開業されて間もなく1年となりますが、どのような患者さんが来院されていますか？

『50～60代の方を中心に老若男女幅広い世代が受診しています。主に近隣の方が多いですが、北摂エリア（豊中・箕面・能勢・茨木など）はもちろん、大阪市内・他

府県からもたくさんいらっしゃっています。遠方の方でも電車・車・バスでのアクセスが可能で、阪急とモノレールの2線乗り入れの山田駅やバス停から程近く、40台以上ある共用駐車場（2時間無料サービスあり）が好評なようです。』

グローバルビレッジでは、大阪大学学生・教職員寮、賃貸マンション、自立型サ高住、シェアハウスといった様々な「居住施設」と、住民や地域の生活利便に応えるクリニックモールをはじめとする「テナント施設」から構成されていますが、グローバルビレッジ内の事業者と連携していることがあれば教えてください。



『ビタレーザラボさん（サラヤ㈱運営のフィットネス）と協力して、肥満・糖尿病や生活習慣病全般を抱えた患者さんに対する運動療法を積極的に行っております。今秋には運動処方箋の運用を目指して、システムの構築に尽力しています。』

本日は、クリニックの特徴と開業にかかる思いや開業準備のポイント、そして現状の取り組みについてお話いただきありがとうございました。最後に、グローバルビレッジでの今後の診療やクリニック運営について一言いただけますでしょうか。

『クリニックモールとしての医療機関連携や他所ではできない、グローバルビレッジならではの特色を活かした事業の立ち上げへの挑戦、そしてGVフェス（毎年開催の地域イベント）等のまちづくり活動の参画を通じて、グローバルビレッジや地域にお住まいの方の健康づくりに貢献していきたいと考えています。また、これから開業される医療機関との相互連携にも注力していきたいと思います。』

